

抽象的に表現するという事は、私たちの周りに広がる様々な形や色の視覚的情報から自分の表現に適したものを抽出して構成することである。私たちが何かを表現したいと思う時、その内容はさまざまである。しかし、それをかたちあるものに表わすには視覚的な効果として材料の操作が必要である。感じ取ったことを表すことは、私たちが印象などとして言葉にすることと大差はない。言葉のボキャブラリーが豊かであればあるほど、その印象が鮮やかになるのと同様、材料体験の種類や効果の引き出しが豊かであるほど、抽象的な表現は奥深いものとなる。言葉には限りがあるが造形の要素は無限にあり、自分の感じ取ったことを表す方法は、自分の納得のいくまで探るよりほかない。材料体験を豊かにし、形や組み合わせ、色合いなどが「いいな」と思う瞬間を大切に、新たな造形の可能性を探ってほしい。

今回、子どもたちの材料体験を豊かにする上で、材料の性質に注目することで道具の扱い方や造形活動の広がりにも多様なヴァリエーションがあることを教師が理解でき、それらを授業作りに行かせることの出来るような材料分類表を作成した。材料分類表では、素材をその見た目の形状から分類するのではなく、下記の造形に関わる3つの要素「構造」「テクスチャー」「表面相」から分類した。



図画工作科で扱う材料による分類表

分類	材料名	構造	テクスチャー	表面相	分類	材料名	構造	テクスチャー	表面相
自然	水	×	×	○	紙製品	折り紙	○	○	×
	雪	○	○	○		トレーシングペーパー	○	○	△(光の透過)
	光	×	×	○		広告紙	○	×	○
植物	落ち葉	○	○	×		紙袋	○	○	×
	枝	○	○	×		色紙	○	○	×
	木の实	○	○	×		お花紙	○	○	×
	竹	○	○	△(焼く、削る)		トイレットペーパー	○	○	△(水をつける)
	縄(わら)	○	○	×		ティッシュペーパー	○	○	×
	つまようじ	○	○	×		段ボール	○	○	×
	割りばし	○	○	×		厚紙	○	○	×
	竹串	○	○	×		障子紙	○	○	△(水をつける)
	板材(合板)	○	○	△(焼く、削る)		画用紙	○	○	×
	竹ひご	○	○	×		和紙	○	○	×
	板材(天然木)	○	○	△(焼き、削り)		新聞紙	○	○	×
角材	○	○	△(焼き、削り)	紙皿		○	○	×	
丸棒(木材)	○	○	△(焼き、削り)	空き箱		○	○	×	
鉱物	砂	△	○	○		紙コップ	○	○	×
	色砂	△	○	○		牛乳パック	○	○	×
	土	○	○	○		紙筒	○	○	×
	石	○	○	△(水をつける)	マスキングテープ	○	○	×	
	石膏	○	○	△(削る)	クラフトテープ	○	○	×	
ガラス	空き瓶	○	○	△	紙テープ	○	○	×	
	ビーズ	○	○	○	ステンボード	○	○	○	
	ビー玉	○	○	×	食品トレイ	○	○	○	
粘土	陶芸用粘土	○	○	○	ビニール袋	○	○	×	
	液体粘土	×	○	○	ストロー	○	○	×	
	小麦粘土	○	○	○	色セロハン	○	○	△	
	石粉粘土	○	○	○	ペットボトル	○	○	×	
	樹脂粘土	○	○	○	ビニールシート	○	○	×	
	油粘土	○	○	○	ビニールテープ	○	○	×	
	紙粘土	○	○	○	PPバンド	○	○	×	
金属	空き缶	○	○	×	スズランテープ	○	○	×	
	金属パイプ	○	○	×	セロテープ	○	○	×	
	磁石	○	○	○	テープ/ひも	○	○	×	
	ネジ	○	○	×	モール	○	○	×	
	アルミホイル	○	○	○	溶き墨	×	×	○	
	釘	○	○	×	鉛筆	○	○	○	
糸・布	針金	○	○	×	色鉛筆	○	○	○	
	羊毛フェルト	○	○	△(毛の長さにより)	ポスターカラー	×	×	○	
	風糸	○	○	×	固形絵の具	○	×	○	
	毛糸	○	○	△(毛の長さによる)	アクリル絵の具	×	×	○	
	綿	○	○	△(繊維の長さによる)	小麦粉絵の具	×	△	○	
	糸	○	○	×	クレヨン	○	○	○	
	布	○	○	×	バス	○	○	○	
ゴム	布ガムテープ	○	○	×	油性マーカーインキ	×	×	○	
	輪ゴム	○	○	×	水性マーカーインキ	×	×	○	
接着剤	グルーガン	○	△	○	ダーマトグラフ	○	○	○	
	樹脂用接着剤	×	△	○	木工用ニス	×	○	○	
	でんぶんのり	△	○	○	それぞれの材料が、構造をもつ材料、テクスチャーをもつ材料、表面相を作り得る材料であるかを判断し、○、△、×をつけた。				
	木工用接着剤	×	×	○					
	液体のり	×	×	○					
	スティックのり	○	×	○					
両面テープ	○	△	△(くっつける)						

抽象表現初級コースにおける材料体験の課題と成果

	課題	活動内容	指導	成果
1	「構造」に着目した素材体験	・材料を限定し、素材そのものの特性を生かす行為(道具)をもとにした活動	・材料の加工に必要な道具の提示 ・身体感覚と素材の量的、空間的变化とが関連するような指導	立体的・空間造形における「かたち」の発見
2	「テクスチャー」に着目した素材体験	・素材の表面の触覚感覚を視覚的にとらえる活動 ・素材の表面の表情を発見させる行為をもとにした活動	・行為と素材とが生み出す触覚的な記憶を連動させながら興味を広げていく場の設定 ・異なる素材の組み合わせ/対比による風合いの違いを提示	平面・レリーフにおける「質感」の発見
3	「表面相」に着目した素材体験	・道具や行為の働きかけが材料の表面に変化、豊かなヴァリエーションを生み出す活動 ・像の発見、より繊細な色彩の表情を読み取る活動	・道具の準備、色の発色などよりきれいに見えるための大まかなルールの提示 ・視点の位置や見え方の違いを気付かせる指導	平面・透明空間における「色」や「光」の発見